

# 「特別専攻科」ってどんなところ？

---

- 学ぼうと思った「きっかけ」
- 特別専攻科で「学べたこと」
- 特別専攻科の「いいところ」
- ここに来て「よかったこと」

を聞いてみました！



## 特別専攻科で学ぼうと思った「きっかけ」は何ですか？

- 特別支援学校でコーディネーターをしていたが、保護者・地域の学校・同僚の教師から相談を受けるなかで、自分の力不足を感じたから
- 特別支援学級の子どもたちへの学習支援を、どのように計画すればよいのかについて学びたいと思ったから
- 大学で特別支援教育のことが学べず、専攻科で学ぼうと思ったから
- 病気を抱える子どもたちの教師になりたいと思ったから
- 就学後も見据えて、就学後に少しでも困ることが少なくなるような見通しをもって子どもと関われるようになりたかったから
- 認定講習で特別支援学校二種免許状を取得したが、具体的な支援方法は手探りのままで、現場を離れてじっくりと勉強したいと思ったから
- 教師として現場に入る前に、特別支援教育に関することが必ず必要な知識だと考え、それを身につけたいと思ったから
- 特別支援教育についてもっと深く学びたいと思ったから
- 1年間で特別支援学校教諭の免許を取得できるから



## 特別専攻科で「学んだこと」は何ですか？

- 勤務校では研究・研修の担当であり、研究の具体的な進め方
- 問題行動に対する支援や手立ての組み立て方（ABA）
- 特別支援学校の教育実習を通して、個に応じた支援の重要性を実感を伴って学ぶことができた
- 特別支援教育の基礎知識から応用的な理論まで幅広く学ぶことができた
- 特別支援教育の基礎知識や支援方法について
- 困っている子どもがいたときに、どのように支援していくかを考えることができる材料をたくさん学ぶことができた
- 「障害のある子どもの問題行動への手立ては必ずある」と思えるようになったこと。また、その手段を知れたこと
- 障害のある子どもたちについての理解と、学校現場での様子について。支援の実践例も学ぶことができた。
- 人とのつながりを学ぶことができた
- 現職の先生方と話す中で、学校現場のことについて知ることができた



## 特別専攻科の「いいところ」ってどんなところですか？

- 授業が丁寧でわかりやすいこと。仲間がいて相談しながら研究に取り組めたところ
- 少人数なので、学生同士で意見交換をする中で、いろいろな立場の人からの意見が聞けるところ
- 現職の先生が身近にいることで、たくさんの質問ができるところ。ゼミや教育実習等で、学んだ知識を実践する場があるところ
- 現場の先生方と共に学ぶ中で、アドバイスをもらえることができ、とても良い経験になるところ
- 通常の学級、特別支援学級、特別支援学校など、さまざまな現場経験がある人たちと共に学び、それぞれの悩みを話し合ったり、意見を交わしたりすることができるところ
- 1年間で「知・肢・病」に関する基本的なことを学べ、さらに自分が深めたいところを発展的に学べるところ
- 子どもたちとの関わり方をより深く考えることができる機会があるところ
- 自分の学びたいと思うことについて深く学ぶことができるところ
- さまざまなバックグラウンドを持つ方々と共に学べるところ



## 特別専攻科に来て、「よかった」と思えることは何ですか？

- 教師になる上で、子どもたちと学校で関わる上で、必要となることを学び、考えることができたこと
- 特別支援教育に対する視野が広がったこと
- 現場で悶々と悩んでいたことについて、1つの解決の方法がつけられたこと。（現場にいるときは苦しかったけど）研究の楽しさを少しだけ知ることができたこと
- 特別支援教育は個が重視されるけれど、学級という集団も大切だということを知ることができ、自分がこんな学級づくりをしてみたいという気持ちを持てたこと
- 1年間でたくさんの知識が学べたこと。現場の先生方から、実際の学校の様子を知ることができたこと
- 特別支援教育を勉強できてよかったと思えたこと
- 現場の当り前に対して、よく考えてみると間違っていることもあることに気づけたこと。1年間で今までとは違う考え方ができるようになったこと
- ここに来て、自分の進むべき道が見えてきたような気がしたこと
- 現場にいると忙しくてできないが、この1年間でこれまでできなかった勉強ができたこと。指導してくださる先生方に出会えたこと